

特定非営利活動法人サロン 2002

2020 年度 活動報告書



はじめに

2020（令和2）年度は歴史に残る1年でした。未知のウイルスは世界中を大混乱に陥れ、私たちの日常生活はすっかり変わってしまいました。“働き方”も“学び方”も“遊び方”も、これまでのやり方が通用しなくなり、“新たな様式”が求められました。その過程で“格差”が露呈し、さまざまなところで“断絶”がみられるようになったのも事実です。いまの社会の根深い闇を感じます。

一方で、こんなときだからこそ互いが助け合い、力を発揮しあい、新しいものを築き上げる試みが多くみられました。古きよきものを再確認することもありました。新型コロナウイルスに振り回されたこの1年は、間違いなく歴史に刻まれるターニングポイントと言えるでしょう。

NPO 法人サロン 2002 にとっても、大きな節目となる年でした。

1997 年からの通算回数が間もなく 300 回となる「月例会」は、すべてオンライン開催となりました。はじめは手探りでしたが徐々に慣れ、新たな可能性に気づくこともできました。「With/After コロナの時代に向けて」と題した12月の公開シンポジウムは、その集大成と言えるでしょう。

さまざまな事業が中止や延期となる中で、「第5回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」を開催できたことは大きな喜びであり、自信にもつながりました。U-18 年代のプレーヤーにとって、2020 年度唯一の全国規模の競技会は、新たな様式のモデルを示す場となりました。これらの取り組みは 2020 年度末発行の「広報誌『游 ASOBI』第4号」で紹介されています。いずれも toto 助成を受けて実現した事業です。自前資金の確保は依然として大きな課題ですが、“志”を実現するための事業に積極的に取り組むことができるようになったのは法人化のメリットの一つです。

このほか共催事業として、年末にオンラインで「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2020」を実施しました。高校生向けのオリンピック教育事業です。1年延期となった TOKYO2020 についてはさまざまな議論がありますが、「オリンピズムを教育に」のメッセージは、オリンピック・パラリンピック競技会の開催可否にかかわらず、今後とも発信し続けていきたいと思えます。

2014 年度の法人化以降、私たちはさまざまな事業に主体的に携わることができるようになりました。その一方で、自分たちのことを見つめ直す機会はほとんどありませんでした。2020 年度は、「いまのままでもいいや」と放置していた課題がさまざまな形で噴出した1年でもありました。本報告書には記載していませんが、自分たちのあるべき姿、今後の方向性について多くの時間をかけて議論しました。

メンバーシップについて改めて考えました。NPO の意思決定にかかわる正会員と“志”に賛同する仲間をあわせ、「サロン 2002 ファミリー（通称サロンファミリー）」と呼ぶことにしました。閉鎖的なイメージがあった「月例会」の名称を 2021 年度より改め、参加者を広く募る「公開サロン」と、ファミリー内で濃い議論をする「限定サロン」に整理しました。情報発信のあり方についても見直しを進めています。組織の担い手の発掘・育成も急務です。持続可能な NPO へ向けての“改革元年”です。

まだまだコロナ禍は続きます。引き続き「With コロナ」の時代と言えるでしょう。

その先の「After コロナ」を見据え、“志”に賛同するサロンファミリーを増やしながら、スポーツを通してのゆたかなくらしづくりに邁進していきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021（令和3）年6月
特定非営利活動法人サロン 2002
理事長 中塚義実

目 次

はじめに.....	1
NPO法人サロン2002理事長 中塚義実	
目 次.....	2
【調査研究・情報提供・普及啓蒙事業】	
1. 月例会活動報告.....	3
2. 公開シンポジウム.....	16
【イベント開催事業】	
3. 第4回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ.....	17
4. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2020.....	20
【国際交流事業】	
5. A-Goalプロジェクトへの参加.....	24
【人的ネットワーク管理運営事業】	
6. 事務局報告.....	26
【後援事業】	
7. 日本部活動学会 第3回研究集会.....	27
【その他の活動】	
8. その他の活動.....	29

1. 月例会活動報告

《2020年4月（通算282回）月例会》

【日時】2020年4月28日（火）19:00～21:00

【会場】それぞれの居場所（ZOOM月例会）

【演者】中塚義実（筑波大学附属高校）、笹原勉（㈱日揮）、徳田仁（㈱セリエ）

【テーマ】「新型コロナ」にどう向き合うか①ー学校・職場（と自宅）・スポーツイベント

【参加者26名】

＜NPO サロン会員（12名）＞

安藤裕一（GMSS ヒューマンラボ）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（JADA）、笹原勉（㈱日揮）、嶋崎雅規（国際武道大学）、関秀忠（弁護士）、田中俊也（三日市整形外科）、茅野英一（帝京大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（㈱シックス）、森田太郎※1、守屋佐栄（守屋俊秀代理）

＜スポンネットサロンメンバー（14名）＞

浅見明子（J-Workout）、井上俊也（大妻女子大学）、奥山純一、熊谷建志（会社員）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、田中理恵、張寿山（スフィード世田谷FC／明治大学）、土谷享、徳田仁（㈱セリエ）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）※2、原田雄司※2、

福島成人（ヨコハマ・フットボール映画祭）、本郷由希、道端寿奈※2

※1：懇親会のみ参加

※2：2020年度新規入会

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

【概要】

Zoomを用いた初の「オンライン月例会」。テーマは「新型コロナ」です。

I. 学校の現場から一生徒と教師はどうしているのか 中塚義実（筑波大学附属高校）

1. 経過

2月27日の安倍首相の「休校要請」を受ける形で、本校も3月2日から臨時休校となることになり、学年末試験もできないまま2019年度を終えることとなった。

4月7日の緊急事態宣言発令に伴い、4月8日の職員会議で「5月6日まで休校」が決まり、入学式も延期となる。さらに、4月28日の会議で「5月末日まで休校期間延長」が伝達され、今に至る。

2. 対応—どのようにしているか

授業については「プロジェクトチーム」を設置し、迅速な対応を進める。オンライン授業をするために、まずは生徒の通信環境を把握する。教員側もはじめてのことなので、得意な先生から教わりながら各教科で準備を進め、4月11日（土）あたりに配信開始、4月13日（月）からは計画的に進めている。「オンライン授業」にはさまざまな形態がある。

①「ライブ」コンテンツ … ZOOMを用いた双方向型授業

②「動画」コンテンツ … 配信された動画教材を自分の時間で学習、課題提出

③「テキストベース」コンテンツ … 紙媒体を送信。生徒は読み込み課題提出

授業以外では、部活動が春休み中にできなくなり、3年生が目標とする「院戦（対学習院総合定期戦）」も早々に中止が決まった。4月26日には全国高校総体（インターハイ）の中止が決まり、高校3年生は目標とする大会を失ったまま最終学年を終えてしまうことに。

まだ入学式を終えていない1年生は、何もわからぬまいまを過ごしている。担任がZoomを用いて面談やホームルーム活動を行っているが、クラスメートと対面していないので不安な生徒も多いことが予想される。

この機会に、保健体育科は何を学ぶ教科なのか、その原点に立ち返っていろいろ考えた。その立場から、「保体科からのメッセージ」を4月11日に、5名の保体科教員から呼びかける形で配信した。同時に「保体科からの課題」として、①運動しよう、②学習しよう、③観察しようの3つの課題を出し、生徒の生活習慣改善への働きかけを試みた。その後、生徒が「夜型・運動不足・スマホ依存」に陥っていることがわかり、午前中の活動を促す必要があるとの認識に至る。そこで保体科では、4月22日（水）から毎朝9:15～9:30の15分間「朝体操」の時間を設け、学年ごとにZOOMを用いて運動するようにした。概ね好評で、各学年約240名のうち、1年150名、2年80名、3年60名が平均して参加している。

II. 企業の現場からーミャンマー転勤からの帰国／自宅はどう過ごすか 笹原勉（株日揮）

1. ミャンマー転勤からの帰国

私は、所属している会社からヤンゴン事務所長の命を受けて、3月2日にミャンマーに赴任。しかし、ミャンマーで最初の感染者が確認され、全世界からの渡航制限が発令された翌日、ミャンマーの脆弱な医療体制を考慮して、会社から一時国の指示。赴任後1月も経たない3月26日に一時帰国。

2. 自宅はどう過ごすか

3月27日（金）の朝日本に帰国、その日から在宅勤務が始まった。在宅勤務をすると、通勤がなくなるだけでなく、社内の会議室などへの移動がなくなり、食卓やトイレに行くのも近いので、極端に歩かなくなる。また、執務環境の良くない机やいすで一日中PCに向かっているので、首、肩、腰などに疲れがたまる。少しでも運動不足を解消しようと、朝は隔日でインターバル速歩と体幹トレーニングを30分ほど行い、お茶の時間にはラジオ体操などで体を動かすようにしている。速歩を行わない日の歩数は平均1000歩前後、ひどい時は500歩強。ごみを出しに行くだけで200歩は歩くので、500歩というのがどれだけ動いていないかがわかる。

私の勤務する会社の英語名はJGCという。世界各地でプラント建設を行っている。今回のコロナに際して在宅勤務者及び現場勤務者の体調を維持するべく、フィットネスクラブのルネサンスと提携して“JGC体操”を作成した。当初は社内でのみの配布だったが、期間限定（緊急事態宣言による外出規制の5月6日まで）でYoutubeでも配信しており、5000回以上のアクセスがあった。そのうち半数は社外からのアクセスとのこと。

III. スポーツイベントがなくなってー観戦ツアーの現状と今後／経営者の苦悩 徳田仁（株セリエ）

1. 現状

旅行業界においては、軒並み3月以降ほとんど売上というものがほとんど立っていないのが現状ではないか。私の会社も4月以降の売上（受注分）は、3月中にきれいにすっ飛んでいる状況である。今や旅行業をはじめ航空業界や旅館・ホテル業界、バス業界など、影響は観光業全般に広がっている。

弊社が取り扱う種類の旅行商品の場合、旅行の目的であるイベント＝「試合」が再開されない限り、売るべき商品を企画することもできないため、まったく身動きがとれない。

2. これからどうする、どうなる？

①フットサルに関して・・・アジア予選とワールドカップ 延期された8月のトルクメニスタンはずかしくないのでは？ フットサル・ワールドカップ（9月予定）については4月中に何らかの発表が

あるらしい。

②EURO、コパアメリカ、オリンピック・・・世界規模の大会は1年延期が決定

③ワールドカップ予選 2次予選の3月・6月開催分が延期、最終予選は来年か？

・・・幸いにも次のワールドカップは2022年6月ではなく、11月なので遅れても間に合う??

④欧州サッカー 各国リーグとチャンピオンズリーグ

・・・UEFAは一度2019-2020シーズンのリミットは8月上旬としたが後日撤回。

《2020年5月（通算283回）月例会報告》

【日時】2020年5月29日（金）19:00～21:00

【会場】それぞれの居場所（ZOOM月例会）

【演者】嶋崎雅規（国際武道大学）、

本多克己（榊シックス／神戸アスリートタウンクラブ）、

浅見明子（J-Workout 株式会社）

【テーマ】「新型コロナ」にどう向き合うか②一部活動・市民イベント・障がい者の現場より

【参加者（会員・メンバー）20名】

浅見明子（会社員 ジェイ.ワークアウト）、安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、井上俊也（大妻女子大学）、梅澤佳子（教員：多摩大学 中塚さんと同じ研究室でした）、開沼位晏（明治大学・学生）、春日大樹（会社員・筑波大学蹴球部OB）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（サロン2002）、熊谷建志（会社員）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、笹原勉（日揮グローバル）、嶋崎雅規（国際武道大学）、竹内佳久（スペシャルオリンピックス）、田中俊也（静岡県三日市整形院長）、田中理恵（会社員）、茅野英一（帝京大学）、土谷享（美術家、KOSUGE1-16代表）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本郷由希（会社員）、本多克己（シックス、神戸アスリートタウンクラブ）

【懇親会からの参加（会員）1名】

梅本嗣（今は、個人事業主です←元博報堂）

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

【概要】

I. 「コロナ下での部活動のあり方～部活動の本質的な価値を見直す～」 嶋崎雅規（国際武道大学）

学校の休校が続き、生徒たちがスポーツを楽しむ場も失われている。高校総体（インターハイ）の中止も決まり、目標を見失った生徒たちも数多くいることだろう。マスコミの論調は、「史上初となる中止の決断に選手、指導者らは無念の思いをにじませた」（朝日）、「選手指導者は大きな目標がなくなったことを嘆く」（読売）など、出場を目指していた選手や指導者がかわいそうという論調ばかりである。

今こそ、部活動を生徒の手に取り戻すチャンス

学習指導要領にみられるように、部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」活動である。本来は、生徒が自分たちで活動を組織するものである。しかし、今までの部活動は、すでにある部活動の中から選ぶ、決められた大会（主に中体連・高体連主催の大会）に出場する、練習メニューや練習試合の相手も先生が決めるなど、決して生徒主体の活動にはなっていない。この「コロナ禍」は、それを生徒の手に取り戻すチャンスととらえられないだろうか。3年生が最後に本気で戦う場は、生徒たち自身が考え、アイデアを出し合い、生徒たち自身の手で作らせてあげられないのだろうか。アイデアは、いろいろと考えられる。たとえば、普段から親交のある学校同士で、どの競技も対抗戦を行うことも考えられる。両校の生徒やOB、保護者の応援のもと、母校の意地をかけた戦い

は、一生の思い出となることだろう。また、単一競技でも、各都道府県内の同レベルのチームでリーグ戦を行うことも考えられる。こうしたアイデアは、まだまだ考えられるだろう。大人たちは、生徒たちのアイデアを実現するための経済的・組織的支援を行えばよいのではないのか。

II. 「市民参加型スポーツイベントとスポーツ NPO とコロナウイルス」

本多克己 (株シックス/神戸アスリートタウンクラブ)

民間企業、NPO としてスポーツイベント、体育館の運営などにかかわっており、コロナウイルスから大きな影響を受けている状況を報告した。特に、フットサルフェスタ (旧ホンダカップ) については、今後のあり方など意見交換を行った。

NPO で主催しているリレーマラソン大会は神戸、豊中で 3 月の開催を目指し、コロナ対策を徹底しての準備を進めていたが直前に中止を決定。参加者や関係者からは厳しい言葉があることを覚悟していたが、クレームなどはほとんどなく、コロナ対応への理解が進んでいることが感じられた。また、NPO で運営している体育館も 3 月以降、休業となった。社員 2 人のみが出勤する体制で、休業に対する補助金などの支給を受けている。補助金や給付金は手続きが簡素化されているが、過度に緩和、簡素化が進んでいるのではないかという懸念もある。また、今後開催予定の大会については、with コロナの環境での開催となるが、その対策については、今後十分な議論が必要と考えている。

III. 「脊髄損傷者専門のトレーニングジムからみえること」

浅見明子 (J-workout 株式会社)

私が勤めるのは、「一生車いす」と医師から宣告された脊髄損傷者が再歩行を目指し通うジム。病院のリハとも一般のフィットネスともちょっと違ったジムには約 500 名が通っている

コロナ禍における運営

脊髄損傷の方は、健常者に比べ、内臓なども機能が衰えている場合が多く呼吸機能の低下により疾患が重症化しやすい傾向にある。その中で、以下のような対策を行いながらジムの運営を行っている。スタッフ、クライアントのマスク着用・こまめな手指アルコール消毒の徹底、朝の検温チェック、公共交通機関利用の禁止、来館の際車椅子のタイヤ・ハンドリムのアルコール消毒など感染の防止を徹底している。またトレーニングにおいて密になりやすい状況の中、人数の制限、換気の徹底、十分な空間維持などの対策を行っている。またコロナ禍での新しいプログラムとしてオンラインを最大限に活用し、自宅でも運動ができる場を提供し、脊髄損傷者に対して運動の継続・大切さを呼びかけている。

《2020 年 6 月 (通算 284 回) 月例会報告》

【日時】2020 年 6 月 20 日 (土) 16:30~18:00 (その後は「オンライン懇親会」。22 時頃まで)

【会場】それぞれの居場所 (ZOOM 月例会)

【テーマ】NPO サロン総会後の意見交換会ー「with コロナ」の時代に向けて

【参加者 12 名】

<NPO サロン会員 (8 名) >

安藤裕一 (GMSS ヒューマンラボ)、金子正彦 (会社員)、岸卓巨 (JADA)、笹原勉 (株日揮)、関秀忠 (弁護士)、茅野英一 (帝京大学)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、本多克己 (株シックス)

<スポネットサロンメンバー (4 名) >

浅見明子 (J-Workout)、小池靖 (在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者)、徳田仁 (株セリエ)、本郷由希

【報告書作成者】 中塚義実

【概要】

1. 月例会と会員・メンバーの位置づけ
2. サロンからの情報発信ーU-18 フットサルの活かし方
3. 月例会の名称・あり方
4. 今年度の公開シンポジウム
5. その他

上記の1～5について、自由に意見交換が行われた。

《2020年7月（通算285回）月例会報告》

【日時】 2020年7月8日（水）19：00～21：00（終了後はオンライン懇親会～23：30）

【会場】 それぞれの居場所（「Zoom」を用いたオンライン月例会）

【テーマ】 「with コロナ」の時代に向けて①ー2020年度のU-18フットサルをめぐって

【演者】 中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（榊シックス）ほか各参加者

【参加者（会員・メンバー）7名】

小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（シックス、神戸アスリートタウンクラブ）、岸巨卓（サロン2002）、浅見明子（J-Workout株式会社）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）

【参加者（会員・メンバー以外）8名】

塔田直文（神戸国際大学附属高校）、小曾根潮（立命館宇治中学）、永松慎二（フローライト・マキナ）、有吉朋喜（Futsal Club BUBBLE）、橘和徳（富山中部高校）、金子諭（FFC スポーツアカデミー）、竹山こはる・野田勇紀（明星大学教育学部3年／保体科教育法受講生）

【報告書作成者】 各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

【概要】

I. U-18フットサルの20年ーサロン2002と東京都サッカー協会の取り組み 中塚義実

1. サロン2002とフットサル

2016年度にはじまる「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」は、「U-18年代のレベルアップ」とともに「日常的なリーグ環境の整備」をねらいに掲げ、toto助成を受けてNPOサロンが主催する事業である。全国各地にU-18フットサルリーグが整備された暁には公的組織が主催できるよう、いまは底辺から積み上げているところである。「新型コロナ」でさまざまな大会が中止となっている今年度の第5回大会を、2021年1月に長野県千曲市で予定している。万全の感染対策を施しながら「with コロナ時代のモデルとなる大会」として開催したい。

2. U-18フットサルのはじまりーそれは東京都フットサル委員会の議論から始まった

2001年8月に開かれた（公財）東京都サッカー協会（TFA）主催「第1回東京都ユースフットサル大会」が、U-18年代の公式大会の始まりである。翌年2月には「第1回東京都フットサルチャレンジU-18」が開かれ、翌年からは夏と冬の大会名を入れ替えた。年2回の都内完結型競技会は、フェスティバルとしていまも続く。8月のJFA主催大会予選と年間を通してのリーグ戦もあり、東京都ではU-18年代の充実したフットサル環境が整備されている。

II. 2020年度のU-18フットサル①ー第20回東京都フットサルチャレンジU-18をめぐって

1. 「新型コロナ」と U-18 年代のフットボール

「新型コロナ」の影響で、3月から全国の小中高校は一斉休校となった。4月初旬の緊急事態宣言発令により休校期間はさらに伸び、全国規模の競技会やその予選、リーグ戦や定期戦など、U-18年代のスポーツ行事は軒並み中止・延期となった。都内完結型のフェスティバルである「第20回東京都フットサルチャレンジU-18」も、このような状況下で開催すべきか否か、さまざまな意見があった。

2. アンケートの実施と開催の方向性

そこで、これまで同大会に参加したクラブの代表者にアンケート調査を実施することにした。アンケートには21クラブ（学校運動部15、フットサル/サッカークラブ6）の代表者から回答があった。そして、大会が開かれた場合「参加を希望する」が15、「どちらともいえない」が6あった。

3. 「大会の方針」の提示と告知

ユース部会で意見交換して作成した「大会の方針」は、以下の通りである。

大会の方針

【目的】 1) フットサル活動再開の喜びを分かち合う（する・みる・語る）
 2) “with コロナ”の時代にふさわしい大会とする（ささえる）

【内容】 1) チャンピオンを決する競技会ではなく交流試合として行う（する・みる・語る）
 2) 参加者自身が“当事者”として大会運営に関わる（ささえる）

【運営のポイント】

- ・ 同時帯に体育館内にいる人数を制限する（短時間で入れ替わる）
- ・ 審判と運営スタッフはTFAから派遣する。ただし参加チームの協力を求める。
- ・ 各チームには責任能力ある大人が帯同し指導する。
- ・ 感染症予防対策と暑熱環境対策に留意する。

代表者会議が開かれた週の後半から、東京都内の陽性者数が顕著に増加してきた。他県への拡大傾向もある。結局、8月3日付で「中止」の連絡を各チームに連絡することとなった。

III. 2020年度のU-18フットサル②ー神戸グリーンアリーナカップをめぐって

本多克己

1997年以来、株式会社シックスという民間企業の立場でフットサルの全国大会を開催してきた。ニッポンハムが11年、本田技研が10年間スポンサードしてくれて、全国最大規模の大会となったが、今年はコロナの影響で秋以降の開催を目指して準備中。

2012年には特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブの理事に就任することになり、NPOが運営しているグリーンアリーナ神戸で大会を開催できるようになった。しかし、現状で全国からのチームを集めての開催は難しいと考えており、どのような形で開催できるのか、開催すべきなのか、という検討を続けている。現状での募集案としては、宿泊をともなう参加は不可とし、1日ごとに優勝を決定。出場チーム数も限定して開催というものを考えている。

<補足>

グリーンアリーナ神戸カップU-18フットサルフェスティバルは8月22日（土）、23日（日）の両日に開催。女子は開催なし、男子は両日とも6チームで行った。

《2020年8月（通算286回）月例会報告》

【日時】2020年8月20日（木）19:00～21:00（終了後はオンライン懇親会）【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて②

—スポーツは人々のライフラインとなれるか（アフリカ編）

【話題提供者】岸 卓巨（A-GOAL プロジェクト代表、一般社団法人アフリカクエスト理事、NPO 法人サロン2002 理事）

【参加者（会員・メンバー）】

安藤裕一（（株）GMSS ヒューマンラボ）、岸卓巨（A-GOAL プロジェクト代表）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、茅野英一（帝京大学）、張寿山（明治大学）、中塚義実（NPO 法人サロン2002／筑波大学附属高校）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員）

【参加者（会員・メンバー以外）】

網代健人（無所属）、厚東芳樹（北海道）、雨宮知子（CHEZA）、今子由紀（クラーク記念国際高校）、金森大輔（JICA 南スーダン事務所）、上村優太（守口ローターアクトクラブ）、木村汐里（関西学院大学）、佐藤樹生（学生）、高橋旺子（NPO 職員）、竹田憲一（個人事業主）、丁岩（個人）、内藤優和（JICA アフリカ部）、中尾優子（ファーマプロダクト）、半井真明（CHEZA）、花田優子（Shaplaneer）、林幸弘（株式会社リンクアンドモチベーション）、広瀬光（Peace Tech Foundation）、法貴潤子（フリーランス）、宮嶋泰子（カルティベータ）、森康弘（宇都宮市立上河内西小学校）、柳田主税（株式会社 ChiMa Sports Promotion Japan）、横山裕司（アフリカクエスト）、米田耕太郎（京都大学大学院）

【概要】

コロナ禍において、さまざまなスポーツ活動が停止している。しかし、このような難しい状況だからこそ発揮できる「スポーツの力」があると考えている。

その一例として、今回の月例会では「A-GOAL プロジェクト」について紹介する。

アフリカでは、新型コロナウイルスの感染者数が、依然として増え続けている。ロックダウンの中で多くの人が仕事を失い、毎日の食事すらままならない状況が発生している。ケニアでは、学校再開も来年1月まで延期が決まり、全生徒の留年が決定した。

そのような状況の中で、アフリカ現地の地域スポーツクラブを「ハブ」に、食糧や衛生用品を住民に届け、啓発活動を行う「A-GOAL プロジェクト」を5月16日に立ち上げた。

普段からスポーツ以外の地域貢献活動（犯罪防止のためのワークショップ、清掃活動など）を行っているアフリカの「地域スポーツクラブ」だからこそ、本当にニーズのある人に支援を届けることができるという仮説のもとプロジェクトを始めたが、これまでにケニアとナイジェリアで500世帯（約2500名）に食糧を届け、その仮説が間違っていなかったということが見えてきた。

また、アフリカ現地に直接行くことが難しい中で、A-GOAL プロジェクトでは、オンラインコミュニケーションツールを活用し、約80名の日本人メンバーと現地のサッカークラブ指導者が連携してプロジェクトを運営している。

月例会では、A-GOAL プロジェクトの紹介だけでなく、他の活動でも応用できるスポーツの役割やオンラインでのプロジェクトマネジメントの実際などについて報告された。

《2020年9月（通算287回）月例会報告》

【日時】2020年9月25日（金）19:05～21:10（終了後はオンライン懇親会 ～23:30）

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて③ー地域スポーツクラブの現場より：ドクターの視点から

【演者】安藤裕一（株GMSS ヒューマンラボ）

【参加者（会員・メンバー）9名】

安藤裕一（株GMSS ヒューマンラボ）、春日大樹（会社員）、岸卓巨（NPO サロン事務局長）、小池靖、笹原勉（日揮グローバル）、関秀忠（弁護士）、張寿山（明治大学／スフィード世田谷）、中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）、本郷由希（会社員）

【参加者（未会員）18名】

梅田宏幸（会社員）、浦井智治（吉川市立吉川中学校）、木村晃（日野市サッカー連盟）、兒玉友（日本福祉大学）、佐藤幸子（公益財団法人ジョイセフ）、澤江幸則（筑波大学）、白石稔（八王子スポーツ整形外科）、竹尾浩輔（熊本市立碩台小学校）、多田省吾（筑波大学附属坂戸高等学校）、田中章（One to one）、谷藤千香（千葉大学）、坪井正人（裾野市サッカー協会）、野田勇紀（明星大学教育学部3年）、畑地桂（ジョイセフ）、福田志のぶ（つくばユースMDC）、三笠裕史（神奈川県立平塚江南高校）、三好圭子、吉澤昌好（認定NPO法人トラソッス）

【概要】

1. 新型コロナウイルス感染症にまつわる社会と国内スポーツ界の動き

新型コロナウイルス感染症に関連した社会の動き並びに国内スポーツ界の動きを右に示した。赤字で示した通り、新型コロナウイルスによって子供も大人も、2月末より5月末までの3ヶ月間集まってスポーツする機会を失ってしまったことになる。

2. 新型コロナウイルス感染症発生例

会員が新型コロナウイルスに感染した例は、千葉県柏市に本拠地を置くスマイルクラブで発生した。このクラブは、1998年より任意団体として発足2000年にNPO法人となった。現在会員数は約1000人だが、4割である400人が発達障害などの障害をもっている子どもや成人であることが一つの大きな特徴となる。

このクラブは、多くのスポーツクラブが行っているのと同様に新型コロナウイルス対策を実施していた。会員である中学生が、通学先の中学の別の運動部員を通して感染したようで、その中学生が感染していることを気づかずにクラブの球技に参加、参加した3日後に保健所よりPCR検査で新型コロナウイルス陽性であったと通知が入り、これを受け同クラブはその球技を始め全ての活動を中止。同クラブに当日参加した濃厚接触者は全員PCR検査を実施したところ全員陰性だった。8月14日まで自宅待機（活動は休止）、お盆明けである8月17日から活動を再開した。

＜この後、この話題について活発なディスカッションが行われた＞

3. 地域スポーツのアンケート報告

先ほど紹介したスマイルクラブを含め7つのスポーツ団体にアンケート調査の結果が報告された。所在地は6都道府県、総合型地域クラブが4団体、バレー、ハンドボール、サッカーがそれぞれ1団体。

参考にしている新型コロナ対策指針は、多くが日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会作成のものが最も利用されていた。特に気をつけている感染対策は、会員やスタッフの健康管理、施設や用具の消毒などが主なものであった。活動休止期間は団体によって差があるが、行政の指導の違いも

反映しているようだ。これまでにスタッフや会員で新型コロナウイルス感染者が発生したのは、7団体のうち1団体（スマイルクラブ）だけ。主なデメリットは、会員数の減少、収入の減少、活動する種目の減少、活動できる施設の減少といったこと。一方コロナによるメリットは少ないが、補助金収入があったこと、子供たちの安全をより一層考えるようになったこと。

with コロナの時代の地域スポーツクラブの今後の展望については、1. 継続的なクラブ運営を行っていくにあたり、会費収入以外の新たな収入源の確保や、会員へのサービスの向上を考えることが必要、2. 感染に気を付けながら、子供が運動できる場を提供する努力を大人が怠らないことが重要、3. オンライン活動の発展の可能性、4. 「安心」というキーワードが重要になるので、「安心」してスポーツ活動に参加できる取り組みと繋がりを通して、皆で検討していく必要性、5. 活動再開時のはつらつとした笑顔を見ると、地域のスポーツクラブとして皆さんの生活に寄り添いながら、健康的な生活をサポートしていきたい、6. 何もかも中止にするのではなく、どうやったら出来るかを考えて進めることが大切（同様意見あり）などが挙げられた。

<この後、さらに活発なディスカッションが行われた>

《2020年10月（通算288回）月例会報告》

【日時】 2020年10月29日（木）19:00～21:00 終了後、オンライン懇親会は23:30まで

【会場】 オンライン（Zoom）

【テーマ】 「with コロナ」の時代に向けて ④ 日本におけるスポーツボランティアの経緯と今後

【演者】 小松章一（行政書士）

【参加者（会員・メンバー）9名】

浅見明子（NPO サロン理事）、安藤裕一（㈱GMSS ヒューマンラボ）、笹原勉（日揮グローバル㈱）
嶋崎雅規（国際武道大学）、田島璃子（NPO サロン事務局／早稲田大学1年）、中塚義実（NPO
サロン理事長／筑波大学附属高校）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員）、
本多克己（特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ）、吉原尊男

【参加者（未会員）8名】

有馬亮二（㈱レガール）、有村実寿々（筑波大学附属高校1年）、高橋正紀（岐阜協立大学）、
垂見麻衣、渋谷茂樹（日本スポーツボランティアネットワーク）、かさいりょうこ、
城村 KUMA 勉、森実鉄夫（社会人）

【報告書作成者】

田島璃子、中塚義実 ほか

【概要】

<演者のボランティア経歴>

2002年 FIFA ワールドカップ メディアセンター

2006年 FIBA 世界バスケットボール選手権（さいたまスーパーアリーナ）観客の誘導

2007年 第3回アメリカンフットボール世界選手権 IN 川崎 川崎球場、等々力陸上競技場

2007年から 東京都サッカー協会 フットサル 運営スタッフ

2008年 から 東京 国際 マラソン 運営スタッフ

2013年 スポーツ祭東京 2013 ボランティア（国体・障害者スポーツ大会）

2018年 世界女子ソフトボール 選手権・オリンピック予選会（千葉）

2019年年 ラグビーワールドカップラグビーワールドカップ 2019 ボランティア…… 駅案内

2020年 TOKYO2020 オリパラボランティアの予定が延期 … フィールドキャスト、シティキャスト

2017年から FC 東京スポーツボランティア
2018年から 葛飾区スポーツボランティア

上記のボランティアについて、イベント型のものとは継続型のものに分けてプレゼンテーションがあった。さらに、スポーツボランティアのタイプを、①競技支援型、②イベント参加型、③地域盛り上げ型の3タイプに分け考察を行った。

日本で行われる国際大会では「こんなの初めて」「こんなにうまくいったのはボランティアがスムーズだった」との意見が聞かれる。その理由として、研修プログラムの充実が挙げられる。

スポーツボランティアの問題点として、リーダーの人材育成がまだまだ不足している。2002年はリーダーがおらず、みな同じ立場だった。リーダーを置くかたちを確立したのが東京マラソン。人数が多くなるとまとめる立場が必要。リーダーの養成に力を入れ、ボランティアを取り仕切るボランティアが出てきたが、歴史的には浅い。

「新型コロナ」が、事前研修のオンライン化に拍車をかけた。オンラインがスムーズにしているからか、現場の混乱は聞こえてこない。しかし、人間関係を築く機会が減った。もともと知っている人どうしの方がやりやすい。

ボランティアのシステムは発展途上で改善の余地がある。環境整備や人材育成がもっと必要である。

《2020年11月（通算289回）月例会報告》

【日時】 2020年11月19日（木） 19:00～21:00

（終了後、オンライン懇親会は23:30まで／ライブは23:50まで）

【会場】 オンライン（Zoomとライブのハイブリッド ※演者2名は「はなの舞 茗荷谷店」から配信）

【テーマ】 「with コロナ」の時代に向けて⑤ー運動部活動における「大会」の意味・意義を考える

【演者】 蔵森紀昭（成城学園高校／全国高体連サッカー専門部技術委員長）、

嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（会員・メンバー）13名】

安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、金子正彦（サロン2002）、川戸湧也（仙台大学）、岸卓巨（NPO サロン事務局長）、北原由（都立武蔵高等学校）、小池靖、嶋崎雅規（国際武道大学）、高田勝敏（SV Empor Berlin e.V）、茅野栄一（帝京大学）、張寿山（明治大学／スフィード世田谷）、中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）、本郷由希（サロンメンバー）、安松幹展（立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科）

【参加者（未会員）5名】

川島健司（読売新聞東京本社編集委員室）、蔵森紀昭（成城学園高校）、城村勉、前川敏也（FCマトリックス）、由井一成（学習院大学）

【報告書作成者】

田島璃子、中塚義実 ほか

【概要】

I. コロナ禍の運動部活動ーある高校の現場より（中塚義実）

4月7日に緊急事態宣言が発令され、休校期間が延長される。「生徒の学習保障」について、いまだかつてないほど教員が連携しあい、いち早くオンライン授業への取り組みを始めた。休校期間は5月末まで続きました。6月1日から学年単位の分散登校がはじまり、生徒はホームルームと体育実技のみ行った。休校期間を通して体育の重要性を皆が認識できたのはよかった。短い夏休みが終わり、8

月 24 日の休みあけから 40 分の 6 時間授業になり、10 月中旬の後期からは 45 分授業。まだ平常ではありませんが、徐々に元に戻している。

部活動関係では、3 月の「湘南戦」中止、春休み部活動禁止、4 月からの「開成レース」、「院戦」、そして高校総体が中止と、大会の中止が続く。6 月に分散登校が始まって、最初のうちは部活動はできなかった。6 月中旬から徐々にできるようになったが、1 年生の入部は遅れた。そしてほとんどの 3 年生は活動を再開しないままやめていった。

II. ユース年代の「大会」をめぐるー サッカー 界の動向 (蔵森紀昭)

1. コロナ禍における高校 サッカー 選手権 大会ー「大会」をどう位置付けるか

コロナの経験によって、当たり前が当たり前でなくたくさん気づかされました。一つがトーナメントという考え方。トーナメントとリーグのそれぞれにメリットとデメリットがあるが、最終的には両方を交えたゲーム環境が、日本ならでは、部活ならではの環境になるのではないかと考える。

2. 今後に向けて

- 1) 全てをコロナのせいにはしない。コロナを経験してわかったことを学びとして生かす。
- 2) 大きな変化を好まない日常が存在していることを自覚する。
- 3) 小さな変化・改革を縦と横に拡散する意識が大切。
(縦：高校年代から中学・大学年代へ 横：サッカーから他種目へ)
- 4) 現状維持は危機であるという認識から議論をスタートさせることが大切である。
- 5) ボトムアップとトップダウンの両方向から議論をスタートさせる。
- 6) 何もしないことは罪である。コロナでの学びを無駄にせず、今こそアクションを！

III. 運動部活動と「大会」ーコロナ禍でみえたこと (嶋崎雅規)

1. コロナ禍の高校野球報道から感じたこと

昨夏、選抜出場予定の 32 校が交流戦を行った。「なんでそこまでして甲子園で野球をしなければいけないか」と当初感じていたが、いざやってみると、普段の甲子園とは違う良さがあった。交流大会ということで、勝っても負けてもそこで終わり。そこで、勝ち負けより大切なもの、全力で野球をする喜びに気づいたのではないかと。そして主催者、運営スタッフがいる非日常の場で、感謝の気持ちが生まれたのではないかと。

2. 生徒の自主的な活動として

そもそも、学習指導要領では、部活動は生徒の自主的・自発的な参加としており、教育課程との関連が図られるようになっている。しかし今までの部活動は、すでにあるものから選び、ニュー や 試合は先生が決めるという学校が多い。コロナ禍を機に見直す べきではないでしょうか。生徒の手に取り戻すチャンスです。先ほど「院戦」の話があったが、生徒の実行委員会が運営している。早慶戦など 規模の大きいものが大学にはあるが、こういうことを子どもの側から 提案してみてもどうだろうか。プライベートリーグを組むなど。生徒だけでやるのは難しいので大人が支援するべきだが、できることは生徒が考えるべき。

《2020 年 12 月 (通算 290 回) 月例会報告》

12 月 13 日 (日) に公開シンポジウム「With/After コロナの時代に向けて」を行う

《2021年1月（通算291回）月例会報告》

【日時】2021年1月28日（木）19:00～21:00

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】第5回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップを振り返って

【演者】中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）

本多克己（NPO サロン副理事長／㈱シックス）

田島璃子（NPO サロン事務局／早稲田大学1年）ほか

【参加者（会員・メンバー）12名】

安藤裕一、金子正彦、岸卓巨、小池靖、嶋崎雅規、関秀忠、田島璃子、徳田仁、中塚義実、野村忠明、本多克己、本郷由希、

【参加者（未会員）5名】

荒川浩幸（北海道）、磯かずあき（東京）、迫田なおふみ（兵庫）、橘和徳（富山）、小曾根潮（京都）

【概要】

totoの助成を受けNPOサロンが主催する標記大会が、1月9日～10日、長野県千曲市で開かれた。16チームのノックアウト方式で行われ、ペスカドーラ町田がZOTTWASEDAとの東京対決を制して初優勝。「U-18フットサル20周年」の東京都に初栄冠をもたらした。

緊急事態宣言下で開催すべきかについては最後まで悩んだが、長野の方々と何度も協議し、＜大会に携わるすべての人が「with コロナ」の新たな様式を理解し実践する＞ことを徹底して開催することとした。with コロナの「新たな様式」が高校生にどこまで徹底できるかが課題だったが、参加チームの意識は高く、ほぼ達成できた。

今回はzoomを用いた試合映像のライブ配信にも取り組んだ。会場に来られない保護者やチームメイトがリモートで応援できるような仕組みである。これも「新たな様式」の一つ。

緊急事態宣言だけでなく大雪の影響もあった。さまざまなトラブルを乗り越え、最後まで実施できたのは地元長野県の方々のご尽力と、「大会に携わるすべての人」の思いが繋がった証だと思う。

担当理事の本多克己と理事長の中塚義実が大会全体を振り返り、参加チームからも大会の印象や各地のリーグ状況についてコメントをいただいた。動画配信についてはサロンの新戦力・田島璃子が報告した。「新たな様式」を共有する機会になった。

《2021年2月（通算292回）月例会報告》

【日時】2021年2月18日（木）19:00～21:00（終了後はオンライン懇親会 ～23:30）

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】サロン2002の「これから」を考えるー情報発信プロジェクトからの問題提起

【演者】情報発信プロジェクト（仮称）

・徳田 仁（NPO サロン理事／㈱セリエ）

・本多克己（NPO サロン副理事長／㈱シックス）

・中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）ほか

【参加者（会員・メンバー）16名】

浅見明子、磯和明、春日大樹、金子正彦、岸卓巨、北澤仁、小池靖、小松章一、嶋崎雅規、田島璃子、茅野英一、徳田仁、中塚義実、野村忠明、本多克己、本郷由希、

【懇親会から参加】川戸雄也、小山勇氣

【月例会報告】 田島璃子、中塚義実ほか

【概要】

まず、議論の前提として中塚理事長から「サロン 2002」の歩みについて話があった。

次に、本多副理事長から「サロン 2002HP」の現状についての分析がされ、その問題点と今後の改良の方策について話があった。また、SNS の活用についての提案もなされた。

さらに、中塚理事長から、広報紙「游」や公開シンポジウム報告書を作成することの意味と、その際の問題点について話があった。

最後に、情報発信プロジェクトのリーダーである徳田理事から、情報発信に関する問題提起がなされた。具体的には、①何の情報を発信するのか、②どのようにして情報を発信するのか、③誰に対して発信するのか、の3点である。①については、サロン 2002 の活動をわかりやすく発信することが必要である。キーワードは、「外から見たとき」。②については、HP を充実させる、SNS を活用する、予約サービスサイト (Peatix など) を活用するなどの提案があった。③については、情報を届けるターゲットとして、NPO 法人サロン 2002 の社員、サロンファミリー、潜在的オーディエンスの3つの層が考えられるが、この中の「潜在的オーディエンス」に情報を届け、リピーター・サポーターとしてサロンファミリーに入ってくれることを目指すべきではという提案がなされた。また、改善すべきものとして、会員種別の名称、月例会の名称、年会費の見直しが挙げられた。

《2021年3月（通算293回）月例会報告》

【日時】 2021年3月13日（土）16:00~18:00（終了後はオンライン懇親会）

【会場】 オンライン (Zoom)

【テーマ】 東京都における U-18 フットサルの 20 年—過去・現在・そして未来へ向けて

【演者】 中塚義実 (TFA フットサル委員会第2種部会長/NPO サロン理事長/筑波大学附属高校)
徳田仁 (TFA フットサル委員会第3種部会長/NPO サロン理事/㈱セリエ) ほか

【参加者 (サロンファミリー)】

小松章一 (行政書士/TFA フットサル委員会運営スタッフ)、橘和徳 (富山中部高校)、
田島璃子 (早稲田大学1年)、茅野英一 (帝京大学)、徳田仁 (㈱セリエ)、
中塚義実 (筑波大学附属高校)、

【参加者 (未会員)】

有吉朋喜 (Futsal Club BUBBLE)、石井智 (錦城高校)、角脇拓也 (東京都サッカー協会事務局)、
田中望 (東京都市大付属高校フットサル部)、松村圭祐 (東海道品川宿 U-18)
山野達也 (ASV PESCADORA 町田 U-18)、羽賀健太 (クラーク記念国際高校)、
速水高志 (筑波大学附属高校)、平野・〇〇・△△ (錦城高校2年)

【概要】

今でこそ U-18 年代のフットサルには JFA 主催の全国大会があり、各都道府県で独自の大会やリーグが整備され、リーグチャンピオンが集う大会が NPO サロン主催で開かれています。その原点となるのは、2001年8月に小金井市総合体育館で開かれた「第1回東京都ユース(U-18)フットサル大会」です。

(公財) 東京都サッカー協会 (TFA) が主催事業として U-18 年代のフットサルに取り組みを始めて今年度で 20 周年となりました。あいにく今年度は TFA 主催のすべての U-18 大会が中止となる「歴史的」な年となってしまいましたが、節目であることには変わりありません。10 周年のときにはシンポジウムと記念誌を発行しましたが、今回、集まってのシンポジウムは開くことができません。そこで NPO サロンのオンライン月例会として 20 周年記念行事を開催しました。

取り上げた内容は次の通りです。

1. 東京都における U-18 フットサルのあゆみ
2. 東京から全国～世界へ
3. 女子のフットサル
4. 「With コロナ」から「After コロナ」へーこれからの U-18 フットサル（ディスカッション）

2. 公開シンポジウム

特定非営利活動法人サロン2002は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”とするNPOです。私たちは「生きる」だけでなく、よりよい「よりよく生きる」には欠かせない文化としてスポーツやアートを捉えています。

コロナ禍でまったく先の見えない状況から、今はコロナとの付き合い方を考えながら日常を取り戻す「Withコロナ」の段階です。「よりよく生きる」ための諸活動も徐々に再開しています。また、課題山積のコロナ禍だからこそ、新たな可能性に気づくことも多く、“ゆたかなくらし”の新しいすがたが見えてきたと感じています。

いずれもサロン2002の会員・メンバーである登壇者は、異なる職種、地域で活動しながら、いずれも「新型コロナ」に向き合う1年を過ごしました。本シンポジウムでは全体を2部構成とし、前半は「イベント」を、後半は「日常生活」を中心に取り上げ、それぞれの経験を「Afterコロナ」にいかにつなげていくかを、参加された方々と共に考えていった。

本シンポジウムの内容については、広報誌『遊 ASOBI』第4号に詳しく掲載されています。

- テ ー マ : 「With/Afterコロナ」の時代に向けて
—コロナ禍で見た“ゆたかなくらし”の新しいすがた—
- 主 催 : 特定非営利活動法人サロン2002
- 日 時 : 2020（令和2）年12月13日（日）
- 第1部 : 10:00～12:00（9:45～入室可能です）
- 第2部 : 16:30～18:30（16:15～入室可能です）
- 懇親会 : 18:30～20:00（オンライン懇親会）
- 会 場 : Zoomを用いたオンライン（それぞれの居場所から参加できます）

演者とトピック：

第1部 コロナ禍で見た“ゆたかなくらし”の新しいすがた—「イベント」を中心に

10:10～10:35 宇都宮徹孝（写真家・ノンフィクションライター）…スタジアムからみえるもの

10:35～11:00 土谷 亨（現代アートユニットKOSUGE1-16）…まつりとアートとスポーツと

11:00～11:25 本多克己（NPOサロン副理事長）…U-18フットサルからみえるもの

11:25～12:00 クロストーク

第2部 コロナ禍で見た“ゆたかなくらし”の新しいすがた—「新しい日常」を中心に

16:40～17:05 田中理恵（会社員/「リモート旅行部」共同主宰）…働き方の変化とリモート旅行の試み

17:05～17:30 春日大樹（某日系総合電機メーカー上海支社所属）…海外勤務で感じたこと

17:30～17:55 岸 卓巨（A-GOALプロジェクト代表/NPOサロン事務局長）…休み時間はアフリカに

17:55～18:30 クロストーク

コーディネーター 中塚義実（NPOサロン理事長/筑波大学附属高等学校）

参 加 者 : のべ63名

3. 第4回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ

報告書挨拶

“With コロナ”の新たな様式ー第5回大会を終えて

たいへん難しい判断でした。緊急事態宣言が発令され、1都3県のみならず地元長野も感染拡大が続く中で、大会を行うべきか否か。最後まで悩みました。

すべての人の健康と安全が大前提です。そのため「無理をすべきではない」ことははっきりしています。一方で、「できる可能性が少しでもあるならチャレンジすべき」の思いもあります。スポーツは不要不急ではありません。人生をゆたかにする大切な活動です。「大会に携わるすべての人が、“With コロナ”の新たな様式を理解し実践すること」が開催の条件であることを、指導者間では共有しましたが、全選手・関係者があらゆる場面で徹底できるかは不確かでした。「新たな様式」には、円陣、大声、拍撃といった行為を慎むことも含まれます。握手もなしです。それらがなくても気持ちを高めることができるのか、勝利の喜びを表現できるのか、相手とハートをつなぐことができるのか…。

多くの方から「聞いてくれてありがとう」と言ってもらいましたが、決勝戦が終わったあとも、まだ確信は持てませんでした。ほんとうに「新たな様式」は徹底できたのだろうか。また「新たな様式」と我々が思っている方法は、ほんとうに適切だったのだろうか…。見えない敵との戦いは、フットサルの試合よりはるかに難しいものです。閉会式の主催者挨拶では、そんな気持ちが頭の中にあっただけで、「おめでとう」「あ

りがとう」より先に、開催判断の難しさと「まだ終わっていない」ことを述べました。「少なくとも家に帰って2週間を自己観察を続けてください。そこまでが大会です」と。さらに、「この大会で感じ、考えた“With コロナ”の新たな様式は、これからもずっと続けてください」と続けました。「新たな様式」は大会期間中だけでなく、普段から心がけ、実践していくもの。心からそう思います。

大雪の影響で試合時間に間に合わないトラブルから今大会が始まりました。U-18年代の公式戦は今年度初めてです。はじめのうちはごちない様子でしたが徐々に慣れ、決勝戦は素晴らしい試合となりました。優勝したベスカドーラ町田、準優勝のZOTT WASEDAだけでなく、参加して下さったすべてのプレーヤー、スタッフ、審判や競技運営に携わる長野県フットサル連盟の皆さん、宿泊や移動に力を注いで下さった皆さん、動画配信を担って下さった方々を含め、日頃からU-18 フットサルを応援して下さるすべての方々に感謝いたします。

まだまだコロナ禍は続きます。「With コロナ」で得た知見を「After コロナ」に生かせるときまで、しんぼうしながら続けていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

特定非営利活動法人サロン2002 理事長 中塚 義美

U-18フットサルのあゆみ

●JFA 全日本U-18 フットサル選手権大会

開催年	優勝チーム	会場
2014年	聖和学園 FC (宮城)	大田区総合体育館、墨田区総合体育館
2015年	岡山県作陽高校 (岡山)	ゼビオアリーナ仙台、仙台市体育館
2016年	帝京長岡高等学校 (新潟)	ゼビオアリーナ仙台、仙台市体育館
2017年	矢野中央高等学校 (栃木)	ゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台 (仙台市体育館)
2018年	帝京長岡高等学校 (新潟)	ゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台 (仙台市体育館)
2019年	ベスカドーラ町田 U-18	浜松アリーナ
2020年	新型コロナウイルス感染症の影響で中止。	

●GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012年に「U-18 フットサルトーナメント」として創設。2015年からは名称を変更し、全国9地域から選抜された12チームで大会が開催されている。

開催年	優勝チーム	会場
2012年	名古屋オーシャンズ U-18 (愛知)	オーシャンアリーナ
2013年	瀬戸内高校 (広島)	オーシャンアリーナ
2014年	真珠総合高校 (千葉)	駒沢体育館
2015年	愛知県選抜 U-18	墨田区総合体育館
2016年	U-18 新潟選抜	墨田区総合体育館
2017年	U-18 新潟選抜	墨田区総合体育館

●グリーンアリーナ神戸カップフットサルフェスティバル

夏休み期間に特定非営利活動法人神戸アスリートタウンカップを主催として開催されるフェスティバル。

開催年	優勝チーム	準優勝チーム
2012年	SAKUYO Caracas do Verde	神戸国際大学附属高校
2013年	名古屋オーシャンズ U-18	SAKUYO
2014年	岡山県作陽高校	エンブレムテック
2015年	SAKUYO	名古屋オーシャンズ U-18
2016年	フウガドールすみだファルコンズ	サントス サッカーショップ
2017年	OKAYAMA SAKUYO	フウガドールすみだファルコンズ
2018年	SBFC ロンドリーナ U-18	ASV PESCADORA 町田 U-18
2019年	北海道 U-18 男子	シュライカー大阪 U-18
2020年	立命館宇治高校	シュライカー大阪 U-18
2020年	神戸国際大学附属高校	gatt 2008

●フットサルフェスタ (旧ホンダカップ)

1997年から開催されているフェスティバル大会に2010年からU-18カテゴリーを設定。

関東・東海・関西で予選大会が開催されている。

開催年	優勝チーム	準優勝チーム
2010年	名古屋オーシャンズ U-18	さくようフットサル部
2011年	府中アスレティックFC ユース	作陽 Oito Solidados
2012年	SAKUYO Nao admitam	武相高校
2013年	クラーク記念国際高校	東京成蹊大学高校フットサル部
2014年	クラーク記念国際高校	湘南工科大学附属高校
2015年	SEINTZ A	SAKUYO
2016年	フウガドールすみだファルコンズ	サントス サッカーショップ
2017年	クラーク記念国際高等学校	フウガドールすみだファルコンズ
2018年	サントス サッカーショップ	SBFC ロンドリーナ U-18
2019年	クラックス	レボナ選抜 U-18
2020年	新型コロナウイルス感染症の影響で中止。	

大会要項

1. 名称

第5回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

2. 主催

特定非営利活動法人サロン2002

3. 主管

長野県フットサル連盟

4. 後援

長野県、長野県教育委員会、千曲市、一般社団法人信州千曲観光局、一般社団法人長野県サッカー協会、戸倉上山田温泉旅館組合連合会（申請中を含む）

5. 協賛

各社

6. 会場

ことぶきアリーナ千曲（長野県）

7. 日程・会場

2021年1月9日（土）、10日（日）

8. 参加資格

- (1) 公益財団法人日本サッカー協会（以下、「日本サッカー協会」とする。）に加盟登録した単独のチームであること（準加盟チームを含む）。
- (2) 前項のチームに所属する2001年4月2日以降に生まれた選手で男女の性別は問わない。但し、高等学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない。
- (3) 2020年度の選出元のU-18フットサルリーグまたはその代替となる大会に登録・出場している選手であること。

9. 参加チーム

参加チームは、次の各号により選出された16チームとする。

- (1) 地域または都道府県のフットサル連盟が主催、主管または後援して開催される2020年度のU-18フットサルリーグの優勝チーム。ただし本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、優勝チーム以外のチームを、単独チーム、選抜チームを問わず、リーグにて選出することを認める。
- (2) 出場チームが16チームに満たない場合は、当該年度のリーグ参加チーム数の多いリーグから順にチームを選出し、16チームでの開催とする。
〔注〕ただし、やむを得ない理由により16チーム未満での開催となる可能性がある。

10. 大会形式

16チームによるノックアウト方式で行う。1回戦・準々決勝敗者による交流戦を行う。

11. 競技規則

大会実施年度の「フットサル競技規則」による。今大会は2019/2020競技規則を用いる。

12. 競技会規定

以下の項目については、本大会で規定する。

- (1) ピッチ 35～40m×16～20m
- (2) ボール 試合球：フットサル4号ボール
- (3) 競技者の数 ベンチに着席できる人数は、試合開始前に提出のメンバー提出用紙に記載されている選手14名、役員4名を上限とする。

(4) 競技者の用具

① ユニフォーム

- (ア) フィールドプレーヤー、ゴールキーパーともに、色彩が異なり判別しやすい正副のユニフォーム（シャツ、ショーツ、ソックス）を参加申込書に記載し、各試合には正副ともに必ず携帯すること。
- (イ) チームのユニフォームのうち、シャツの色彩は審判員が通常着用する黒色と明確に判別しうるものであること。
- (ウ) フィールドプレーヤーとして試合に登録された選手がゴールキーパーに代わる場合、その試合でゴールキーパーが着用するシャツと同一の色彩および同一のデザインで、かつ自分自身の背番号のついたものを着用すること。
- (エ) シャツの前面、背面に参加申込書に登録した選手番号を付けること。ショーツにも選手番号を付けることが望ましい。選手番号は膝下に区別し得る色彩であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。
- (オ) 選手番号については1から99までの整数とし、0は認めない。

い、1番はゴールキーパーが付けることとする。必ず、本大会の参加申込書に記載された選手固有の番号を付けること。

- (カ) ユニフォーム広告表示により生じる会場等への広告掲載料等の経費は当該チームにて負担することとする。
 - (キ) その他のユニフォームに関する事項については、日本サッカー協会のユニフォーム規程に則する。
- ② 靴：キャンパス、または柔らかい皮革製で、靴底がゴム、または類似の材質で出来ており、接地面が紺色、白色、もしくは無色透明のフットサルシューズ、トレーニングシューズ、または体育館用シューズタイプのもの。（スパイクシューズおよび靴底が着色されたものは使用できない。）
 - ③ ビブス：交代要員は、競技者と異なる色のビブスを用意し、着用しなければならない。
- (5) 試合時間
30分間（前後半各15分間）のプレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは5分間（前半終了から後半開始まで）とする。
- (6) 試合の勝者を決定する方法（試合時間内で勝敗が決しない場合）
- ① 交流戦は引き分けとする。
 - ② PK方式により勝敗を決定する。PK方式に入る前のインターバルは1分間とする。
 - ③ 決勝：10分間（前後半各5分間）の延長戦を行い、決しない場合はPK方式により勝敗を決定する。延長戦に入る前のインターバルは5分間とし、PK方式に入る前のインターバルは1分間とする。

13. 懲罰

- (1) 本大会において退場を命じられた選手は、次の1試合に出場できず、それ以降の処罰については当大会規律・フェアプレー委員会で決定する。
- (2) 本大会期間中、警告を2回受けた者は、次の1試合に出場できない。
- (3) その他、本大会の懲罰に関する事項については、本大会の大会規律委員会が決定する。

14. 参加申込

- (1) 1チームあたり26名（役員6名、選手20名）を上限とし、選手は選出元のリーグに登録していること。
- (2) 申込み締切日以降の参加申込内容の変更は認めない。

15. 電子選手証

各チームの登録選手は、日本サッカー協会発行の電子選手証の写し（写真が登録されたもの：フットサル登録選手）、または選手証（写真が貼付されたもの：サッカー登録選手）を、代表者会議および試合会場に持参すること。電子選手証または選手証が確認できない場合は、試合に出場できない。

16. 組み合わせ

主催者において決定する。

17. 参加料

1チームあたり40,000円

18. 表彰

優勝、準優勝のチームを表彰する。

19. 経費

旅費交通費は各チーム負担とする。

20. 傷害補償

チームの責任において傷害保険に加入すること。

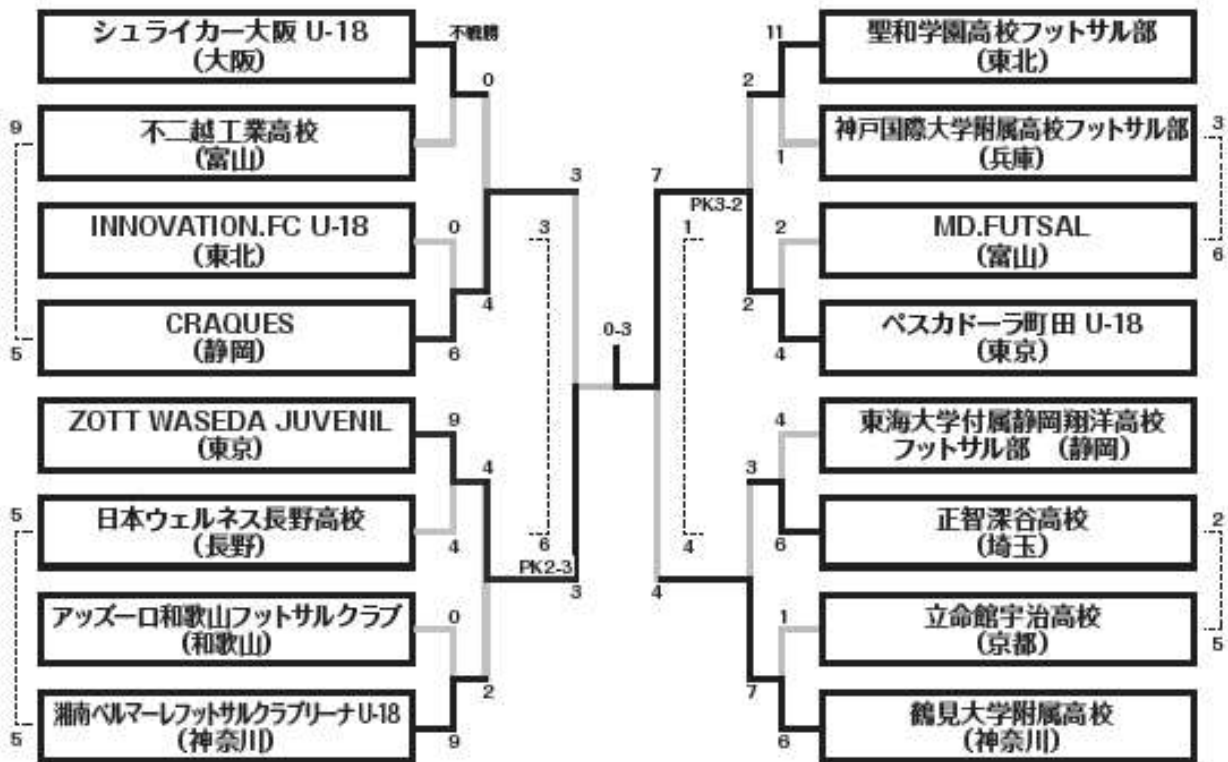
21. 負傷対応

競技中の疾病、傷病等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。

22. その他

- (1) 代表者会議は1月4日19:00よりオンラインにて行う。
- (2) 試合開始の60分前、マッチナンバー13、14は40分前にマッチコーディネーションミーティングを行い、ユニフォームを決定する。
- (3) 参加チームと選手は日本サッカー協会の基本規程および付属する該規程を遵守しなければならない。
- (4) 大会規定に違反し、その他不正行為等があった場合は、そのチームの出場を停止する。
- (5) 試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止になった場合、その帰責事由のあるチームは0対5または、その時点のスコアがそれ以上であればそのスコアで敗戦したものとみなす。
- (6) 本実施要項に記載のない事項については、主催者にて決定する。

大会結果



得点ランキング

順位	選手名	所属	得点
1	渡部 朝登	鶴見大学附属高校	6
2	亀田 航正	正智深谷高校	4
2	成田 美光	ベスカドーラ町田 U-18	4
4	山田 葵城	CRAQUES U-18	3
4	織田 遼希	CRAQUES U-18	3
4	若林 勇太	聖和学園高校フットサル部	3
4	高橋 大樹	湘南ベルマーレ FC ロンドリーナ U-18	3
4	嶋原 直希	ZOTT WASEDA JUVENIL	3
4	草野 大空	聖和学園高校フットサル部	3
4	松野 洸佑	ベスカドーラ町田 U-18	3
4	本田 遼大	湘南ベルマーレ FC ロンドリーナ U-18	3
4	二瓶 京介	ZOTT WASEDA JUVENIL	3
4	大澤 寛治	ZOTT WASEDA JUVENIL	3



ベスカドーラ町田 U-18 (東京)



賀川浩貴 (得点王)

賀川浩

1924年神戸出身。神戸一中などでプレーした後、サンケイスポーツ指導員などを経て、現役最年長のスポーツライター、サロン 2002 正会員、2010年に日本サッカー殿堂入り、2015年には FIFA 会長賞を受賞した。

渡部 朝登 選手

4. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2020

国内ユースフォーラム2020 実施報告

クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020 兼 日本オリンピックアカデミー第8回ユースセッション

国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム（国際YF）が1997年度より隔年の持ち回りで開かれている。世界中から高校生100名以上が集まり、座学や討議、スポーツやアート活動を通してオリンピズムを学び、互いの交流を深め合う場である。主催は国際ピエール・ド・クーベルタン委員会（CIPC）である。

日本からは2009年より生徒の派遣を開始し、2011、2013年は筑波大学附属高校から2名の生徒が参加した。ここまでは「オブザーバー」であったが、日本の生徒の評価は高く、2015年から7名のフルメンバーでの参加が認められた。2013年9月に2020東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、国内の「オリパラ教育」推進に追い風が吹く中で、国際YFへの派遣生徒の選考会を兼ねた高校生向けのオリンピック教育事業が企画され、「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム（国内YF）」が始まった。初回は2015年3月13～15日に筑波大学で開催され、同年夏の第10回国際YFへの派遣生徒を選考した。

以後、偶数年度の12月に国内YFが2泊3日で行われ、翌夏の国際YFへの派遣生徒を選考する流れができた。筑波大学とともに中京大学でも、日本オリンピックアカデミー（JOA）のユースセッション事業として開かれるようになり、両事業から生徒を選考する形となった。2019年度にはCIPCの日本支部として日本ピエール・ド・クーベルタン委員会（CJPC）が設置され、選考と派遣を担うようになった。また奇数年度にも「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」は東京都高体連研究部の主催事業として開かれ、2017、2019年度には筑波大学附属高校敷地内の桐陰会館にて、2日間の通いの形で実施された。特定非営利活動法人サロン2002はこれらの事業に共催者として名を連ね、理事長が全体のコーディネーターを務めるとともにいくつかのプログラムを担っている。

2021年はキプロスで第13回国際YFが予定されていた。7名の派遣生徒は2020年12月に筑波大学と中京大学で開かれる国内YFで選考することにしていたが、コロナ禍における宿泊行事は困難である。そこでオンラインでの開催に切り替え、筑波大学と中京大学が共同で主催した。開催直前に2021年夏の国際YFの延期が正式に発表され、選考の目的は少し後退したが、高校生年代へのオリンピック教育をメインに実施した。

さまざまな困難はあったが、オンラインでの2日間のプログラムは充実した内容で、参加者の評価も高く、今後へ向けて大きな可能性を感じるものとなった。1月末にはCJPCによって7名の生徒が選考され、2021年中に国際YFの代替イベントが開催された場合は、今回選考された生徒が参加することとなる。

国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム

- | | | |
|------|-------|-------------------------|
| 第1回 | 1997年 | ル・アーブル(フランス) |
| 第2回 | 1999年 | マッチ・ウェンロック(イギリス) |
| 第3回 | 2001年 | ローザンヌ(スイス) |
| 第4回 | 2003年 | アレンツァーノ(イタリア) |
| 第5回 | 2005年 | ラートシュタット(オーストリア) |
| 第6回 | 2007年 | ターボル(チェコ共和国) ... 日本に紹介 |
| 第7回 | 2009年 | オリンピア、パリニ(ギリシア)...日本初参加 |
| 第8回 | 2011年 | 北京(中国)...筑附高から2名 |
| 第9回 | 2013年 | リレハンメル(ルノー)...筑附高から2名 |
| 第10回 | 2015年 | ピエスチャニ(スロバキア)...日本から7名 |
| 第11回 | 2017年 | ウルヌルメ(エストニア)...日本から7名 |
| 第12回 | 2019年 | マコン(フランス) ...日本から6名 |
| 第13回 | | 「2021年キプロス」だったが... |

<事業概要（実施要項より引用。一部修正）>

【目的】

- 1) オリンピック教育：日本の高校生にオリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解させる
- 2) 選考：2021年予定の国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考する

【主催】 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）

中京大学

- 【共 催】 日本ピエール・ド・クーベルタン委員会 (CJPC)
特定非営利活動法人サロン2002 (NPOサロン)
特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー (JOA)
- 【協 力】 東京都高等学校体育連盟研究部
中京大学スポーツミュージアム
- 【期 日】 2020年12月26日 (土)、27日 (日) ※両日とも9:00~17:00
- 【会 場】 オンライン (Zoomを利用)
- 【参加者】 高校生32名 (および参加校教諭ほか関係者・運営スタッフ等)
参加校(人数): 筑波大学附属高校(3名)、筑波大学附属坂戸高校(2名)、中京大学附属中京高校(11名)、
帝京高校(8名)、自由学園男子部(2名)・女子部(4名)、クラーク記念国際高校(2名)

【プログラムとスケジュール (時程は実際のもの)】

◆12月26日 (土)

- 9:00~10:00 オープニング／オリエンテーション ※8:45から入室可
- 10:10~11:00 講義① オリンピズムとクーベルタン
- 11:10~12:00 講義② オリンピックと疫病
- 13:00~14:50 講義③ 国際スポーツ大会におけるおもてなしの心
- 15:00~17:00 演習① 中京大学スポーツミュージアム活動 (オンライン見学とグループ活動)

◆12月27日 (日)

- 9:00~10:30 演習② OVEPを用いたグループ活動 ※8:45から入室可
- 10:40~12:10 演習③ 英語での討議
- 13:10~15:00 演習③のまとめと発表 (日本語)
- 15:10~16:00 オンラインエクササイズ
- 16:00~16:45 クロージング
- 17:00 解散 ※課題レポートを12月28日 (月) 中に提出する

【参加費】 無料

<2日間の様子>

■12月26日 (土)

オープニングでは本事業の趣旨、2日間の概要を説明した。国際YFが2022年に延期されたため、当初「第13回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム (2021年、キプロス) への参加者を選考する」としていた目的が、「2021年予定の国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考する」と改められたことを伝えた。各学校3分程度の「学校紹介」では、個性的な各学校の取り組みが紹介された。

講義①では近代オリンピックの創始者クーベルタンの思想と行動を、講義②ではオリンピックが古代から近代にいたるまで、戦争と疫病からの復興が大きなテーマであったことを、100年前のアントワープ大会を題材として学んだ。昼休みはしっかり確保し、13時に再開。15分前には入室可能とし、生徒同士が自由に話し合える場を設けた。初対面の人とオンラインで会話する難しさはあったが、このような時間を何度か設けるうちに生徒同士の会話も徐々に弾んでいった。

午後の講義③はグローバルマナーについて、「おもてなし」をキーワードにした学習である。グループ活動の時間も設けられた。演習①は、まず中京大学スポーツミュージアムの展示物を学芸員の方がカメラを動かしながらライブで紹介、普段のミュージアム見学よりもっとしっかり鑑賞できると感じた。後半は、すべての五輪参加者に与えられる「参加メダル」をグループごとに作成する活動である。約30分し

かなかったが、各自が手もとに用意した紙と色鉛筆、クレヨンなどでメダルの案を作り、グループで一つのアイデアにまとめる活動は、オンラインの可能性を感じさせる試みであった。各グループがつくったメダルは缶バッジとなって参加者に送付された。

■12月27日（日）

前日とは異なるグループで演習②③が進められた（②と③は同じグループ）。演習②は、聖火と聖火リレーについて学んだうえで「聖火リレーをデザインする」活動である。グループごとに割り当てられた地域を聖火リレーが通る設定で、どのコースを選ぶか、誰を聖火ランナーにするか、コロナ禍での留意点は、などについて意見をまとめた。30分弱の短い活動ではあったが、工夫しながら意見交換する姿が印象的であった。

演習③は国内YFの柱となるプログラムである。ここまでの学びを生かして「コロナ禍において東京2020大会を開催する意義」について議論した。90分間は日本語NGである。英語でのコミュニケーション、しかもオンラインということで、画面を共有しながら作業したり、手もとにある紙に書いたものを示したり、さまざまな方法で意思疎通を図っていた。昼休みを挟んで午後は日本語で演習③の成果をまとめ、各班が発表して活動を終えた。言葉の壁とオンラインでのグループ活動の難しさをどの班も感じ、苦労していたようだ。

最後は、全員が着替えて画面の前で運動した。筑波大学附属高校の「朝体操（ブラジル体操）」も自由学園の「デンマーク体操」も、自宅学習期間中に実際に行われた運動プログラムである。音楽に合わせて生徒たちは楽しげに体を動かし、締めくくることができた。

クロージングでは各学校代表1名が感想を述べるとともに、CIPC副会長の田原淳子氏が締めの挨拶をし、コーディネーターの中塚がコメントして閉会となった。終了後もしばらく別れを惜しんで会話を楽しむ様子が印象的であった。

<参加生徒の声（全体を振り返って）>

- ・初めてこのようなzoomを使って他の学校の方と交流するプログラムに参加しましたが、二日間本当に充実した時間で、オンラインとは思えない程でした。講座はもちろん、特にグループ活動での交流を通じて、初対面の方とも積極的に自分の意見を話したりグループの意見をまとめたりする力を成長させることが出来ました。大変貴重な経験をさせていただくことができました。ありがとうございました。
- ・朝から夕方と長かったが、適度な休憩時間があったので1つ1つに集中できたし、フリータイムを使って友達を増やすことができた。ここでつながった人達と継続的に関わっていききたい。
- ・二日間という短い時間だったが、このユースフォーラムでは今まで知らなかった様々なことを知識として得ることができ、またオンライン上ではあったけれども同じ高校生とともにオリンピックや東京2020大会のことを議論し合うことができ、とても充実した濃い時間になったと思う。このフォーラムのことについて学校で募集があったときに、最初は「オンラインで何をするんだろう」という疑問があった。参加を決めてからは英語でのディスカッションがとても不安だったり、事前に配布されていた参加者一覧を見ながら、みんなの頑張っていることや特技などに感心して自分にはこれといったものがないんじゃないかと早くも自信を失いかけていたり、ワクワクしつつも緊張や焦りのようなものを感じていた。しかし実際に参加してみると、講義を聞くことによって知識が増えたとし関心も広がった。

<今後に向けて>

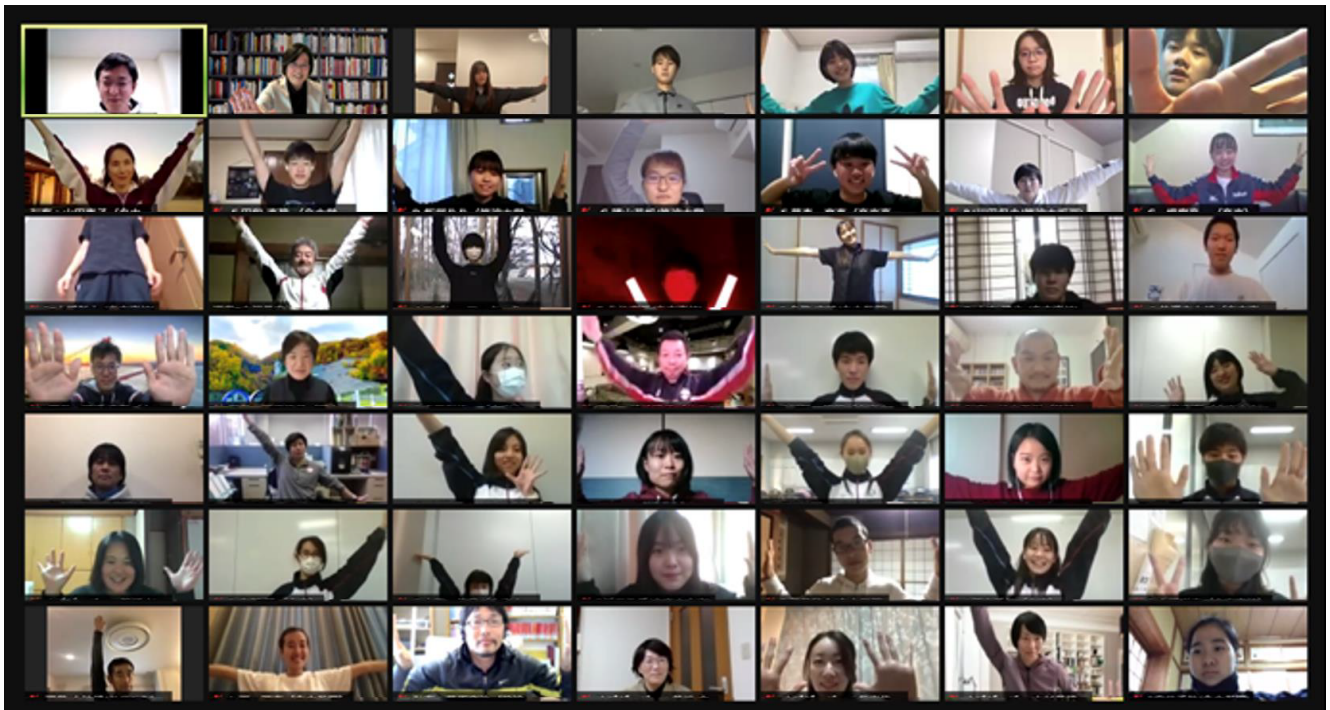
はじめてオンラインで国内YFを行ってみて、今後につながるいくつかの可能性と課題が見えた。

■可能性

- ・オンラインだからこそ筑波大学と中京大学でともに作り上げることができた。空間を超えてつながることができるのは大きなメリットである。国内のオリンピック教育をさらに広げられる可能性を感じた。
- ・オンラインで共通の講義が提供できる。演習や実習も工夫次第でいろんなことができる。今後も様々な取り組みに挑戦することで、可能性を広げていきたい。

■課題

- ・通信環境によって参加の度合いが左右されるのが課題。受信側だけでなく送信側の環境整備は必須。
- ・オンランでさまざまなことができることがわかったのは大きな成果。一方で、対面でしかできないこと、対面の方が効果が上がることが多いのは実感としてある。対面での活動を今後も重視していきたい。
- ・オンラインだと参加者の取り組む姿勢がわからない。「ながら参加」ではなく「全集中」で臨んでもらいたいが、集中力を維持できる時間や方法を探る必要はある。東京2020以降につながるオリンピック教育の内容と組織を、引き続き模索していきたい。(文責：中塚義実)



5. A-GOAL プロジェクト

A-GOAL (Africa-Global Assist With Local Sport Clubs) プロジェクトは、新型コロナ感染拡大の影響を受け、失業などにより生活に困窮したアフリカの人々を「スポーツのネットワーク」を生かして支援するプロジェクトです。サロン 2002 事務局長の岸卓巨氏が中心となり、2020 年 5 月に立ち上げ、サロン 2002 でも共催団体として支援してきました。

アフリカには、スポーツの指導だけでなく独自でコミュニティ活動（清掃活動・HIV/AIDS 予防啓発ワークショップなど）を行っている地域のスポーツクラブ（サッカー・陸上など）が多数あります。A-GOAL では、そのような地域の「ハブ」になっている合計 18 のクラブと連携し、ケニア・ナイジェリア・マラウイの 3 カ国で、約 2,000 世帯・10,000 人に食糧や衛生用品を届けてきました。

A-GOAL プロジェクトの詳細は、公開シンポジウム第 2 部で発表したため、ここでは A-GOAL と SDGs（持続可能な開発目標）との関係や A-GOAL が掲載された新聞記事を紹介します。



● A-GOAL と SDGs（持続可能な開発目標）の関係

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、国連サミットで決められた 2030 年までの全世界共通の目標です。国連では、SDGs の達成において、スポーツが重要なツールになると認識されています。A-GOAL でも、SDGs の達成に貢献すべくプロジェクトを進めています。



6. 事務局報告

1. 2020 年度 NPO 法人サロン 2002 会員・スポネットサロンメンバー数

NPO 法人サロン 2002 会員数 32 名
 スポネットサロン 2002 メンバー数 73 名

2. 2020 年度役員・事務局

理事長 中塚義実
 副理事長 本多克己
 理事 浅見明子、岸卓巨、齊藤宣彰、嶋崎雅規、関秀忠、徳田仁
 監事 茅野英一
 事務局 岸卓巨、皆川宥子、田島璃子

3. 事業内容

	事業内容
通年	ネットワーク会員の募集、ホームページ・メーリングリストの運営、会員名簿の作成、ユースサッカーリーグ「DUO リーグ」からの業務受託（2021年1月まで）
4月	4 月月例会「『新型コロナ』にどう向き合うか？—学校・職場（と自宅）・スポーツイベント」
5月	5 月月例会「『新型コロナ』にどう向き合うか② 一部活動・市民イベント・障がい者の現場より」
6月	2020 年度サロン 2002 総会・意見交換会
7月	7 月月例会「『with コロナ』の時代に向けて①—2020 年度の U-18 フットサルをめぐって」
8月	8 月月例会「『with コロナ』の時代に向けて②—スポーツは人々のライフラインとなれるか（アフリカ編）」
9月	9 月月例会「『with コロナ』の時代に向けて③—地域スポーツクラブの現場より：ドクターの視点から」
10月	10 月月例会「『with コロナ』の時代に向けて④—日本におけるスポーツボランティアの経緯と今後」
11月	11 月月例会「『with コロナ』の時代に向けて⑤—運動部活動における『大会』の意味・意義を考える」
12月	公開シンポジウム「『With/After コロナ』の時代に向けて—コロナ禍でみえた“ゆたかな暮らし”の新しいすがた—」 「クーベルタン—嘉納ユースフォーラム 2020」主催
1月	「第 5 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」主催 1 月月例会「第 5 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップを振り返って」
2月	2 月月例会「サロン 2002 の「これから」を考える—情報発信プロジェクトからの問題提起—」
3月	3 月月例会「東京都における U-18 フットサルの 20 年—過去・現在・そして未来へ向けて」 広報誌「游 ASOBI」2021. 4 第 4 号の発行、配布

7. 日本部活動学会 第3回研究集会

コロナ禍における部活動のすがたー「大会」の意味・意義を考える

日本部活動学会は2017年12月に発足した新しい学会である。学会大会（3月）では学術的な研究成果を、研究集会（12月）ではより現場に近い実践報告を中心に、毎年企画されている。

2020年度より同学会の理事・研究集会担当となった中塚は、当初「持続可能な部活動のあり方」を主題とする研究集会を構想していた。しかし2020年度は「新型コロナ」が部活動にも大きく影響し、またコロナ禍において改めて部活動のあり方が見直される好機となった。そこで表記テーマを掲げ、「大会」を通して部活動のあり方を考えることを企画した。

特定非営利活動法人サロン2002は後援団体として名を連ね、11月の月例会で「withコロナ」の時代に向けて⑤ー運動部活動における「大会」の意味・意義を考える>を取り上げた。12月の研究集会では、11月の月例会での議論を踏まえつつ、「文化部活動」についてもかるた競技を取り上げ幅広く議論した。

日本部活動学会は「ブラック部活動」や「働き方改革」など、部活動へのネガティブな論調の中で生まれた学会ではあるが、持続可能なよりよい部活動を志向する会員も多い。今回は部活動の意義を再認識する機会となり、あわせて部活動をめぐる議論の中に「主催者側の視点」が欠かせないことを示唆するものとなった。部活動が、スポーツを含めた文化の担い手を育てる場であるとするなら、「ささえる」人材をいかに育成するか議論は、今後大いに為されるべきだろう。

■日本部活動学会 第3回研究集会概要

【主催】日本部活動学会

【後援】特定非営利活動法人サロン2002

【主題】コロナ禍における部活動のすがたー「大会」の意味・意義を考える

【日時・会場】2020（令和2）年12月6日（日） 16：30～18：30 オンライン（Zoomを利用）

【登壇者】（発表順）

- ・蔵森紀昭（成城学園中学校高等学校／全国高体連サッカー専門部技術委員長）
- ・由井一成（学習院大学／神奈川県高文連かるた専門部元幹事）
- ・嶋崎雅規（国際武道大学体育学部教授／特定非営利活動法人サロン2002理事）

※中塚義実（筑波大学附属高等学校／特定非営利活動法人サロン2002理事長） ※コーディネーター

【参加者】42名 日本部活動学会員33名＋非会員9名

■当日の日程

- 15：30 演者は筑波大学附属高校会議室に集合 注）演者4名は同じ場所から配信した。
- 16：15～16：30 参加者入室
- 16：30～16：45 オープニング（中塚義実）
- 16：45～17：15 サッカーの事例から（蔵森紀昭）
- 17：15～17：45 かるた競技の事例から（由井一成）
- 17：45～18：15 研究者の視点から（嶋崎雅規）
- 18：15～18：30 ディスカッション

■各演者より

1) 蔵森紀昭

今年度は高校総体はじめ各種大会が軒並み中止となった。そんな中、正月の全国高校サッカー選手権大会開催へ向けての動きや、ノックアウト方式のカップ戦だけでなく日常生活に根差したリーグ戦をサッカー界が推進していることが紹介された。部活動改革を踏まえながら、持続可能な部活動、大会のあり方を模索しているサッカー界の姿勢が語られた。

2) 由井一成

神奈川県私立高校教員として競技かるたに深くかかわってきた経験から問題提起が為された。アニメの影響で競技かるた人口は増えたが、競技会の担い手は慢性的に不足し、世代交代は進まない。解決策の一つとしてOB・OGが運営に携わる取り組みが紹介された。

三密となりがちなかるた競技のあり方そのものがコロナ禍で問われている。「常識を見直す」ことで解決の糸口が見えることが示唆された（寄稿編参照）。

3) 嶋崎雅規

各種競技会が中止または開催方式の変更を余儀なくされたことに対するマスコミの論調が紹介された。リーグ戦・定期戦・交流戦を「ケ・日常」、負ければ終わりのカップ戦を「ハレ・非日常」と位置付け、日常生活の中にスポーツが位置づけられるリーグ戦が重要。ただし形だけのリーグ戦でなく、その意味を共有すること必要がある。コロナ禍で大会がなくなる状況だからこそ、生徒自身で大会を作り上げる姿勢が求められると述べた。

4) 論点の提示（中塚義実）

ディスカッションの時間は取れなかったが、「議論のために」「論点」を提示した。

議論のために	論点：運動部活動における「大会」の意味・意義
<p>◆「大会(イベント)」の種類を明確化しておきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カップ戦」(ノックアウト方式) ・「リーグ戦」(総当たり戦) ・「定期戦」… 似た者同士で競い合う。拡大版が「6大学野球」など ・「フェスティバル」… 単発イベント。自分たちで仲間を集めて開く「大会(または小会/フェスティバル)」。「女子高生フットサル大会」は本校女子蹴球部が10年ほど前にはじめた。 <p>◆関連する用語を整理しておきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トーナメント(Tournament)」は、1か所に集まって短期間でチャンピオンを決める方法。ノックアウト方式が採用されることが多い。 ・「リーグ」は「組織」。 ・「リーグ戦」は、原則として総当たり方式(Round Robin System)で一定期間行われる。「生活」の一部であり、「遊び」を組織化したもの。 ・「選手」とは選ばれた人のこと。プレーする人の総称は「プレーヤー」 ・「チーム」はゲームを行う単位。「クラブ」はチームの集合体 ・大規模な(対外的なもの)は「大会」。小規模な(内部的なもの)は「小会」(東京高師附属中では「校内小会」あり) 	<p>論点：運動部活動における「大会」の意味・意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「大会」の種類と位置づけ一年間スケジュールにどう位置づけるか <ul style="list-style-type: none"> ・カップ戦、リーグ戦、定期戦、フェスティバル… ・レベルやニーズに応じてかわる「大会」を選択できるように… 2. 「大会」の範囲・規模—クラブ間交流とクラブ内交流 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにあった「大会」を自分たちで作ればよいのでは？ ・チャンピオンを決めなくてよい。プレイの喜びを感じられる「大会」を。 3. 「大会」の担い手—いかに育てるか <ul style="list-style-type: none"> ・「大会」運営の教師依存はダメ。持続可能なあり方を… ・ささえる喜び！ 自主運営と受益者負担。社会的に価値があることは社会で十分に負担。 ・学校体育の役割、使命、ここにあり！ 4. 「日常」と「非日常」—何ををもって「日常」とするか <ul style="list-style-type: none"> ・「大会」は「日常」の延長か、それとも「非日常」ととらえるか <ul style="list-style-type: none"> → 「お祭り」「節目」「区切り」もよいが、「大会」を最後に「引退」??? ・「補欠ゼロ」の実現を=レベルやニーズに応じてプレイできる

(文責：中塚義実)

8. その他の活動

2020年度は当初予定されていた次の事業が、コロナ禍で滞りました。

■Non-Border ボッチャ交流会

年齢・性別・国籍・スポーツ経験・障がいなどの違いを越えて交流することを目的に、2018、2019年度に表記事業が開催されました。いずれも150名ほどの多種多様な参加者が桐蔭会館（筑波大学附属中高敷地内）に集まり、多くの方がボッチャと交流を楽しみました。

しかし今年度は、人が集まること自体を避けなくてはなりません。リモートでのボッチャも検討しましたが実現には至りません。コロナが去ったあとで、改めて企画したいと考えています。

■「DUO リーグ」アドバイザー事業

DUO リーグは東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校・クラブユースによるサッカーリーグで、全国に広がるユースサッカーリーグのモデルとして1996年度に始められました。NPO 法人サロン2002 理事長の中塚義実が初代チェアマンを務め、DUO リーグの理念や構想にはサロン2002の月例会の議論が大きく影響しています。

NPO サロンは2016年度よりDUO リーグの事務局業務を受託してきましたが、2020年度からはアドバイザー契約を交わし、側面からサポートする形をとることとなりました。残念ながら2020年度はコロナ禍により、DUO リーグ自体の開催がありませんでした。NPO サロンはDUO リーグ理事会の議論にかかわりながら、ユースサッカーのパイオニアとして何ができるかを示唆しましたが、具体的な活動はほとんどできませんでした。

■リサイクルプロジェクト／スキンプロジェクト

サロン2002では、履けなくなったサッカーシューズや使えなくなったサッカーボールの「革」を活用してコインケースやキーケース、サンダルなどを制作する「リサイクルプロジェクト／スキンプロジェクト」に取り組んできました。2008年度にDUO リーグの「トロフィーがない！プロジェクト」でできあがった巨大靴型トロフィーを契機にはじまったこの活動は、スポーツとアートの融合、“遊び心”を形にしたイベントとして、その後も随時行われてきました。

今年度は人が集まる場を設けることができず、開催できませんでした。コロナが去ったあとで、改めて企画したいと考えています。

なお、DUO リーグの巨大靴型トロフィーは、12年間活用したのち新たなトロフィーを作ることになっていましたが、今後も継続して使うことになっています。

■SPORT FOR TOMORROW 事業／Sport in Life 事業

NPO 法人サロン2002は、SPORT FOR TOMORROW (SFT) コンソーシアムの会員です。交流会等にはこれまでも積極的に参加してきましたが、今年度はオンライン交流が中心となりました。サロン2002のメンバーには他のSFT コンソーシアム会員にかかわる人も多く、この事業を通して交流を深め合っています。

SFTの後継事業とされるSport in LifeについてもNPO サロンは参画団体に名を連ねていますが、いまのところ具体的な動きはありません。